

<目指す学校像>

「人と人が交わり、心の交流が実感できる温かな学校」

所沢市立狭山ヶ丘中学校「学校だより」 — 令和6年月 —

URL : <https://tokorozawa-sayamagaoka.edumap.jp/>



狭中だより

[学校教育目標]

『自立と共生』

校長 石原 健

衣替え（学校朝会より）

～前略～

最近の気候は、例えば初夏とか晩秋と言われるような春夏秋冬の間の季節がなくなりつつあり、春の次はいきなり夏が来てしまったり、秋の次はいきなり冬が来てしまったりと季節の変化が極端な傾向にあるように感じます。以前にもお話ししたように、私はこの5月の気候が大好きです。空気が乾いていてカラッとしているし、気温も20℃前後でとても行動的な気分になります。体を動かすのが大好きな私にとってもとてもよい季節です。

さて、昨日5月1日からは夏服と冬服の併用期間が始まりました。すでにポロシャツで登校してきた人もいます。担任の先生からお話が合ったように衣替えの6月1日を基準とした前後一カ月間は夏服冬服の併用期間となります。今日はその衣替えについて少しお話をしたいと思います。

そもそも、「衣替え」は、6月1日を目安に冬服から夏服へ、10月1日を目安に夏服から冬服へと替える風習です。衣替えの歴史は平安時代まで遡り、中国から伝わった習わしと言われています。では、何故一斉に衣替えをするのでしょうか。その背景には、日本ならではの感性があります。日本人は、古来より、服装というのは自分のためだけのものではないと考え、着ている服が周りの人に与える影響も考慮しながら暮らしてきました。とくに大事にしてきたのが季節感で、季節を先取りするのは良いけれど、過ぎた季節をひきずるのは野暮なことでされてきました。例えば、10月1日に全てを冬物にする人はほとんどいないと思いますが、10月に入ったら、秋を感じたり意識したりするようにはなりませんか？服のデザイン等もいかにも涼しげな夏の絵柄ではなく、秋らしい色柄にしたほうが馴染むのではないのでしょうか。「秋らしい」とか「春っぽい」と言うのは褒め言葉ですが、その反対に季節に合わない「暑苦しい」や「寒々しい」などと言うように、何気ない一言からも、私たちが日ごろから季節感を意識していることがわかります。なので、季節に応じた装いができるよう、家庭でも6月や10月を目安に夏物と冬物を入れ替えるようになったのです。



このように、衣替えには日本の感性が息づいており、衣替えを通じて衣服の季節感を養ったり、衣服の手入れ・管理・整理整頓の仕方を身につけたりしてきました。暮らしにおける行事（例えば、節分やひな祭りや七夕なども当てはまりますが…）は季節の巡りとともに繰り返されるので、私たちにとっては、大変意義のある行いであり、こういった行事の意味合いを意識して過ごすことで私たちの生活も心豊かなものになります。なので、単なるイベントとして捉えるのではなく、多少で構いませんので意味合いを考えながら生活してみてください。

※季節感、野暮、粋というような日本（人）ならではの考え方は大切にしていきたいですね！